

	弘前大学 農学分野
学部等の教育研究 組織の名称	農学生命科学部（第1年次:185） 大学院農学生命科学研究科（M:60）
沿 革	大正9（1920）年 弘前高等学校設置 昭和24（1949）年 新制弘前大学文理学部設置 昭和30（1955）年 農学部設置 昭和46（1971）年 大学院農学研究科修士課程設置 平成9（1997）年 農学部，理学部を改組し，農学生命科学部設置 平成14（2002）年 大学院農学研究科を改組し，大学院農学生命科学研究科修士課程設置
設置目的等	<p>大正9年，弘前大学農学生命科学部・農学生命科学研究科の母体の一つである弘前高等学校は，高等学校令第1条に依り男子に精深なる程度に於て高等普通教育を施し国家有用の人物を錬成し大学教育の基礎たらしむることを目的として設置された。</p> <p>新制国立大学の発足時には，弘前高等学校は，弘前大学文理学部として承継された。</p> <p>昭和30年，青森県地域の生物産業振興に寄与できる高次な人材養成と研究開発を目的に農学部が設置された。</p> <p>昭和46年，学部における一般的並びに専門的教養の基礎の上に，広い視野に立って，精深な学識を修め，専門分野における理論と応用の研究能力を養うことを目的に農学研究科修士課程が設置された。</p> <p>平成9年，農学と生物科学分野の基礎と応用面の教育・研究の連携のもとに新しい生物機能の開発とその利用及び自然環境との調和を図りつつ人類の健康，食糧確保などの目的達成を可能にする農業の確立のための基礎から応用までの教育・研究分野の拡大並びに幅広い視野と豊かな感性を持った人材の育成を目的に農学生命科学部が設置された。</p> <p>平成14年，農学と生物学の学際的な幅広い専門知識と高度な課題探求能力を有する高度な技術者及び研究者の養成を目的に農学生命科学研究科が設置された。</p> <p>平成20年，「理農融合」を学部の教育体制として具現化するために，基礎科学としての生物学から応用科学としての農学へ専門分野が隣接し合うように学科を4学科制から5学科制へ改組した。</p>

	<p>平成24年、農学生命科学の幅広い分野を網羅し、各専門分野の垣根を低くした体系的な教育体制を編成するために、農学生命科学研究科を4専攻制から1専攻5コース制へ改組した。</p>
<p>強みや特色、社会的な役割</p>	<p>弘前大学においては、世界と地域に対し、人材の育成と情報の発信を行い、かつ、世界的教育研究拠点の形成を目指し、地域の活性化を支える高い教養と幅広い知識を有する社会人と高度専門職業人の育成に取り組んでいるところであり、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 農学と生命科学を柱に、それらを融合した新しい学問領域に関する教育の展開をし、ライフサイエンスの専門的基礎学力を備え、食料生産、生物資源の開発、豊かな地域環境づくりに貢献できる高度な専門人材の育成並びに農業のグローバル化に対応できる経営能力を併せ持つ人材育成の役割を果たす。 ○ 農業関係機関や地方自治体等と農業や環境における地域課題解決プロジェクト、国際交流協定校との交流・連携を進めてきた実績を生かし、地域社会にとどまらず国際的にも活躍できる農学系人材を育成する学部・大学院教育を目指して不断の改善・充実を図る。 ○ 生命科学的基礎から農学への応用を目標として未利用の地域資源の開発をすすめ、世界自然遺産である白神山地の基礎的研究の実績を生かし動植物資源の保護・有効利用をめざし、りんごなどの農産物の高品質化やブランド化など農学諸分野の研究を推進し、地域社会の発展や我が国の農学の発展に寄与する。 ○ 青森県をはじめとする関係自治体の農業関係の審議会等への参加、地域の農業関係機関等との共同研究や受託研究の実施、地域連携推進部門を整備して地域の個別課題に対処するなど、地域社会に貢献してきた実績を生かし、青森県をはじめ周辺地域の地域活性化及び農業、食産業の振興に寄与する。 ○ 「りんごを科学する」などの農業従事者へ向けての教育、地域社会の課題解決や農業・食品産業を題材とした講演、学部公開講座、地域課題の解決をテーマとした社会人入学者対応実践研究プログラムを通じた社会人受け入れなどの実績を生かし、社会人学び直しを推進し、地域の農業、環境問題解決及び発展に資する。

	<p>○ 小中学生と親の農業体験学習，後継者育成のためのアグリカレッジ講座，高校生等への出前授業，市民向け講演などを通じ，地域の理科及び環境教育，科学技術教育の推進に貢献するとともに，学部間協定校との学生及び教員による国際交流推進を積極的に展開する。</p>
--	---